

—古墳が身近に—

中西 卓 @備前

前回のミーティングで触れた当地の古墳について、現地を訪ねたり資料で知ったことを報告します。



桜が丘西古墳 遺跡之碑 家から近くの道端に立つ高さ 2m 余の石碑。隣接する石に謂れが次のように刻まれています。

岡山ネオポリスの開発事業にともない 昭和五十一年六月から昭和五十五年一月の間 山陽町教育委員会は 尾谷石山古墳 日古木古墳 中島古墳 二井大池古墳等の発掘調査を実施した この遺跡を残した郷土の祖先の遺徳を偲び ここに これらの古墳に眠る諸霊を合祀して鎮魂の碑とするものである 昭和五十五年九月 岡山県赤磐郡山陽町 大和ハウス工業株式会社



岩田 14 号墳 山陽団地 3 丁目の住宅地に 6 世紀中頃に築造された円墳で 全長 11.8m 玄室は L5.5m / W2.6m / H2.7m で備前地域で屈指の規模 団地造成時の発掘調査で 金環・玉の装身具や武器・馬具、須恵器・土師器などの副葬品と多数の木棺の痕跡が発見された 石室の天井石は古墳を保存するために復元した 出土品は山陽町郷土資料館に展示されている



森山古墳 旧山陽町穂崎の農地に 5 世紀後半に築造された前方後円墳で 両宮山古墳の陪塚と考えられる 帆立貝式と呼ばれる珍しい形式 墳丘の長さは 85m 前方部の幅 35m 高さ 11m 元は周濠と周堤が巡って 墳丘を中心に南北 150m 東西 120m の領域だった <傍に桃太郎伝説の幟が立ち、遠方から見える高い常緑針葉樹が存在感>



両宮山古墳 旧山陽町穂崎・和田の農地に 5 世紀中頃に築かれた、吉備の三大巨墳の一つ、墳丘は盛土で築かれ盾形周濠が二重に巡る、日本一大きな大仙古墳（仁徳天皇陵）の 2/5 に縮小とされる 日本書紀や古事記に、吉備の豪族が大和の大王に反乱し鎮圧されたとあり、そのことから葺石や埴輪がないのかもと言われる <写真は赤磐市資料から>

上は近辺の古墳について述べましたが、赤磐市は市域が起伏に富んでいて、山城や旧跡など多様な事績があります。岡山は宗教についても、多くの仏教宗派のほか、近世に興った金光教や黒住教が定着し、地元には日蓮宗の不受不施派のような当地独特の信仰も根づいています。

近年の団地では都会人が持ち込んだ文化があり、豊かな自然環境と相俟って より良い社会が育てばと思いますが、保健保安林の再生もその一つです。

リタイア後に定住したこの地をもっと知りたくても、あしが不自由だけでなく、情報の伝手も減ってきました。今更に交流の輪を広げようと思っても無理なのかと自問したりするこの頃です。

次回ミーティングの直前になりましたが、今度も様々な話題が弾むように期待しています。 （おわり）